

背景

実質的に活動されている方がそう多くないという現実

明石所属の審判登録者数は300人弱となっています。これは競技人口に対して13都市協会内でも多い方に分類され、各チーム、各関係者によるご理解とご支援の賜物であると感じています。改めて感謝申し上げます。ですが、一方で登録者数の割に公式戦で審判される方に偏りがあると感じています。

なぜこのような状況になってしまっているのか?

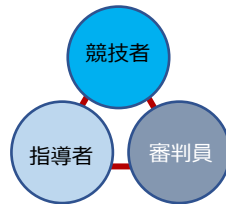
- ・公式戦で失敗はできない
- ・多くの観客の目が気になる
- ・そこまでのスキルがない

目指すもの

より多くの方に、もう一步深くサッカーを楽しんでいただきたい。

まずはサッカー競技そのものを楽しむこと。そして、ルールや審判にもっと興味を持ってもらうこと。これからはベーパーレフェリーへの支援、全く経験がない方へもアプローチし、審判員発掘への足掛かりとしたい。

- ①ルール遵守とそれに関わる審判員の必要性への理解
- ②三位一体(競技者/指導者/審判員)による競技レベルの底上げ



活動名

チーム巡回ツアー ARC2022(歩く2022)

従来型：委員会が決めた日時・会場で開催 2022型：チームが使用している会場へ出向く

「静」から「動」へ。対象者を限定的なものとし、来ていただく講習会が圧倒的だった今、それらを見直し我々が試合会場やチーム本拠地に出向き、審判の必要性やルール説明をより分かりやすく、楽しくお伝えする出前形式の講習会を実施。内容は実際に身体を使って「遊び感覚」で進めます。

対象者

- どなたでも参加OK!!
- ・観戦中心の保護者
 - ・小学生/中学生/高校生
 - ・初心者
 - ・ベテラン審判員

もちろん
参加費
無料

| ニーズ | リソース |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・スキルの高さ ・増員と人材確保 ・育成/強化 | <ul style="list-style-type: none"> ・知識と経験/ノウハウ ・発掘基盤と手段 ・実践機会の創出 |

相互マッチング

コンテンツ

(所要時間:40分程度)

- ・紙芝居「なんでルールが必要なん?」
- ・実際にやってみよう!
- ①どっちが出した?タッチジャッジ
- ②反則に挑戦!?
- ③出してみよう、イエローカード!
- ・質問コーナー
- ・まとめ



狙い

- ・実技講習による経験値UP
- ・“やればできる”を実践!!
- ・隠れ審判員からの脱却
- ・審判の楽しさ、奥深さを知る

参加特典

- ・JFAロゴ入り ホイッスル
- ・参加修了証

★サッカーの見方が変わる

準備物

チーム(環境面)

- ・グラウンドもしくは体育館
- ・ボール
- ・デモストレーター10名程度(演技する小学生)
- ・受講者(運動できる服装で) 極力経験値の少ない方
- ・お手伝い
- ・ベテラン審判員 数名

※屋外の場合、小雨決行

審判委員会

- ・紙芝居
- ・笛(基本、受講者へ進呈)
- ・アシスタント フラッグ 数組
- ・拡声器
- ・ピブス 3色
- ・イエロー/レッド 各カード 数組
- ・手袋 2色 6組
- ・参加修了証

スケジュール案

| 2か月前 | 1か月前 | 3週間前 | 2週間前 | 当日 |
|------------|------------|----------|---------|-----|
| 各種審判委員長と相談 | 開催日確定 | 告知&参加者募集 | | ●実施 |
| | 候補日選出・日程調整 | | 準備/人数確認 | |

初心者向けコンテンツ

まずは「やってみる」からはじめる

何にしても、どんなことをするにしても、最初は誰もが初心者。うまくいかないのが普通。人は失敗から学ぶことの方が多い。だからこそまずやってみて「楽しい」「面白い」「難しい」「やれば出来た!」「思ったよりも簡単!」と感ずることから始めたい。

今回、参加していただいたのは、U-12の選手、約20名!!
少しでも審判の楽しさを伝えたく、普通やらないような実技練習を考案し、実際にやってみました。

<内容>は「イエローカードとレッドカードをバンバン出そう!」というモノ。

<手順>としては、以下のとおり。

- ①REF役には、開始前に笛とカードを渡しておく。
- ②REF・DF・FWを一直線上に立たせる。
- ③DFの選手には予め「赤色と黄色の手袋」を着用。
- ④別のREFが笛を吹き、FWがドリブルを開始する。
- ⑤後ろからDFとREFが追い掛ける。
- ⑥DFはFWの腰をめがけてタッチする。(反則行為とみなす)
- ⑦REFはDFがどちらの手でFWに触れたかを目視。
- ⑧現認(目視)できたらであれば、笛を吹き、触れた手袋の色のカードをDFに提示して、終了。



<目的> 「毎回カードを出す」という非日常的な楽しさの中にも「確認(見る)」「判断(決断)」「実行(吹く/出す)」することで、一連の動きを実体験していただきました。

常に人とボールが動き回っているサッカーにおいては、審判も常に【見に行く行為】を行わないと中々うまく判定できない場合がほとんどです。よって、真ん中の写真のように、審判・選手・ボールが一直線上に重なっている(串刺し状態)と、反則が起こった場合、死角になっているため、[見えない=判定できない]こととなります。そうならないためにも審判は動きながら見える位置へ(角度と距離を保ちながら)移動し続ける必要があることをこの会の中で知って貰えたのなら幸いです。

今回参加していただいた選手たちは、とても楽しそうに、そして何より3人が全力疾走して体現してくれたことが我々も嬉しかったです。しかも全員、判定が正しかった! ナイスジャッジでした!!

今後は、子供から大人まで、経験/未経験関係なく、このような楽しみながら体験できる会を継続的に開催していく予定です。機会がありましたら是非ともご参加ください。



「気づき」と「まとめ」 → 自ら動き、見に行く行為が、とっても大事!

経験者向けコンテンツ

競技規則の改正について

◆ハンドについて

[質問内容と再確認事項]

- ・どうなれば反則となりますか?
- ・どんな改正となったのですか?
- ・腕にボールが触れただけで、反則ですか?

[考慮すべき事項]

- ・当たった身体の部位が「腕」?、脇の下の位置より上?下?
- ・当たった順番はどう? (胸から?足から?直接腕?)
- ・腕の位置(高さ・角度・広がり)は、普通か不自然か?
- ・当たるまでの経緯(偶発的か否か)も見てね。
- ・得点または得点機会になっていないか?
- ・競技者の意図は? (ボールに寄っていくような動作等)

---一方的に伝えるのではなく、考えや意見交換しながら伝えました。

[判定する際に]

ボールが腕に触れる・当たった際に、上記のことを踏まえて、判定しなければならない。

- ・一斉に出る競技者からの「ハンド」の声に惑わされない。
- ・ボールが腕に触れるまでの経緯を認識できていること。(選手の意図も考える)
- ・現認していること(これ一番大事)※かもしれない=x
- ・自分の心の中で「何故そう判定したのか」を順序立てて説明できること。
- ・反則後の処理も頭の片隅に(再開位置/再開方法/懲戒罰:あれば)

---極力、起こりそうな場面を予測し、見える位置への移動が大事。
5W1Hのように「いつ、どこで、誰が、どの部位に、どのように触れ、どのような結果となったか」までを監視した上で判定したい。

「大きなチャンスとなる攻撃の妨害/阻止」と「決定的な得点機会の阻止」との違い

得点機会の阻止・・・その名の通り「ゴールできそうな場面」において反則して攻撃を阻止する行為。(例: GKと1vs1)
考慮事項の4条件全て揃ったら確定
大きなチャンス・・・直接得点に結びつきそうにない場面において、反則で大きなチャンス※を潰す行為を主に言う。

<<考慮事項>>

- 1.反則とゴールとの距離
- 2.プレーの方向
- 3.守備側競技者の位置と数
- 4.ボールをキープできる、またはコントロールできる可能性

<<大きなチャンス>>

- ・ボール保持者の前方に大きなスペースがある
- ・攻撃側の数的優位状況
- ・攻撃できる選択肢の多さ(パス/ドリブル/シュート)

悩み相談

- ・一人審判法の動き方が分からない。
- ・公式戦での誤審が怖い。
- ・このような実技研修会をもっと欲しい。
- ・審判員の悩み/相談を委員会で解消して欲しい。

経験することでしか得られない物もあるが、委員会としても研修会の開催や実際に現場で話し合い、レクチャーしながら解決へ!